

短歌 (投稿順)

卒寿過ぎ日毎に老いる吾なれど百歳峠否茶寿までも  
 盆も過ぎ肌寒くなる朝と夕秋の気配にひぐらしの声  
 この家をひとり守るのもおかげさま祖霊迎えてもてなすお盆  
 忘れまじ戦争の悲惨さまざまと終息の日を祈る毎日  
 宿題の子に寄り添って言の葉を集めて遊び和む秋の夜  
 鈴虫君ワンマンステージ降りる時期次のタクトはコオロギ君  
 懈怠せず嫉まず投稿続けよう句を苦とすれば初志泣かす故  
 家横の擬宝珠の葉を食ひ尽くす鹿とも共生するが如くに  
 姪よりの愛情こもる便りあり憂な心に明りを点す  
 電車内まわりを見れば皆マスク携帯見ている静かな不気味  
 逞しき孫の手借りて種根蒔きて雨を待ちつつ発芽見守る  
 鬼灯を破らないよう種を出し舌で鳴らした遠き思い出  
 道端に仰向けの蟬一つおりジジィと小さく動くことなく  
 老い耄れて会話も暗くなりたれば明るくあれと娘に諭される  
 昭和館革新館を知らぬ子ら満たす秩父の新映画館  
 液晶の画面見ながら夏休み推し活動む悔いはござらぬ  
 黒チャンは偉くなったが昔しから世話好きの癖今も変わらず

下日野沢 太幡 喜一  
 皆野 大澤 貴夫  
 三沢 眞下 杏子  
 皆野 根岸 詩子  
 皆野 萩原 初恵  
 皆野 戸塚喜久雄  
 皆野 引間 万亀  
 三沢 新井 民子  
 上日野沢 四方田利男  
 皆野 村田ハツ代  
 下日野沢 新井 節子  
 国神 藤原マキ子  
 下日野沢 浅見 豊子  
 皆野 打木 昭廣  
 皆野 太幡琉美花  
 皆野 石原 達也

俳句 根岸茉莉 選 投稿数 18 句

ケイタイに孫来るの声石榴笑む  
 (評)このところコロナ禍で親族との行き来も出来ず子や孫を案じて淋しい思いの作者に嬉しいメール。「何をして孫を喜ばせようか？」色々思つて心弾み待ち遠しい日々です。庭の石榴も熟れて赤い口を開けて嬉しそう。楽しい時を過ごして下さい。二句目、人気がない山裾の墓地。戦場に散つた三兄弟の墓前でしみじみと偲んでいる作者です。ひぐらしの声が哀しさを増します。この句にウクライナの今が重なり三人の息子さんを失つた親の気持を思い胸が痛みました。戦争は悲惨ですね。三句目故郷を離れ暫くぶりで帰つた里は昔のままの景色が広がります。赤とんぼも群れています。道で懐しい知人に会つた作者の驚き喜びが、まだぬたりぬたりとよくなります。話が尽きなかつたでしょうね。つづくつづく三兄弟の兵の墓  
 三沢 眞下 杏子  
 土方の刀つと光る処暑かな  
 皆野 太幡琉美花  
 三沢 新井 民子  
 終電の灯蛇行す秋の雨  
 下日野 新井 節子  
 三沢 新井 叶子  
 切通し過ぎてあの嶺秋の風  
 皆野 戸塚喜久雄  
 夕暮に悲しき声の法師蟬  
 皆野 村田ハツ代  
 夕映えにしばし佇む秋の暮  
 皆野 萩原 初恵  
 古里に行灯点る盂蘭盆会  
 皆野中 小菅恭青史  
 向きたがへ風と戯る庭の百合  
 皆野 根岸 詩子

日赤募金ありがとうございました

お寄せいただいた募金(活動資金)は、日本赤十字社の実施する災害救護、献血、福祉施設整備などの事業に使われます。

特別活動資金(10,000円以上)  
 340,000円 (33名)  
 活動資金(500円以上10,000円未満)  
 290,000円 (228名)  
 戸別募金807,500円(3,230世帯)  
 寄付金 7,000円

合計 1,444,500円

赤い羽根共同募金

今年も赤い羽根共同募金運動が実施されます。赤い羽根は、皆さんの善意に支えられてきました。これからも一層のご協力をお願いします。

運動期間  
 10月1日～31日

ウクライナ 人道危機救援金

皆さんの善意により、多くの救援金をお寄せいただきました。引き続き、ご協力をお願いします。

救援金  
 5,000円

※皆野町社協取扱い分  
 (令和4年8月31日現在)

受付 役場・長生荘

問合せ 社会福祉協議会  
 ☎62-4615